

平成17年度 第1回 鳥取大学経営協議会 議事要旨

日 時 平成17年6月1日(火) 午後3時00分

場 所 鳥取県立県民文化会館 第3会議室

出席者 片山 善博, 永瀬 正治, 長田 昭夫, 古澤 巖, 吉岡 秀樹,
能勢学長, 高木理事, 安藤理事, 石部理事, 中村副学長の各委員

欠席者 長谷川善一

[陪席者] 林監事, 重政理事, 岩崎理事, 和泉副学長, 小林副学長,
岡田地域学部長, 井藤医学部長, 副井工学部長

議事に先立ち, 学長から大学の現状等を踏まえた挨拶の後, 委員の紹介があった。

議 事

1. 平成16年度決算について

学長から, 平成16年度決算について審議願いたい旨の提案があり, 財務部長から, 資料1-1~1-6に基づき, 平成16年4月1日現在における貸借対照表の変更点(会計検査院からの指摘による国からの承継資産の修正)及び平成16事業年度の財務諸表についての説明に続き, 平成16年度は約31億円の純利益(約24億円の見かけの利益を含む。)があった旨及び会計監査人による監査結果によっては若干の修正がある旨の概要説明があり, 審議の結果, 了承された。

なお, 委員から次のような意見があった。

- 実質利益の7億のうち4億は人件費の抑制等によるものであるが, いつも欠員がある状態で教育に支障がないのか。
- 大学病院が儲けに走れば, 地域医療のバランスが崩れることにもなりかねないので, 経営ばかりではなく, 地域全体の医療も考えてほしい。
- 実質利益の7億円については, 文部科学省から経営努力が認められ剰余金として繰り越されることを望む。剰余金は大学の体質強化等に使用してほしい。県も市町村も大学に力を付けてもらおうと考えて協力しているのに, 国に召し上げられたら何のためにやっているかわからない。地域との連携におけるモチベーションにつながる。

2. 平成18年度概算要求事項(予定)について

学長から, 平成18年度概算要求事項について審議願いたい旨の提案があり, 財務部長から, 資料2に基づき, 各部局から要求のあった事項について概要説明と併せて現在文部科学省への事前説明を行っている旨の報告があった。

次いで学長から, 大学としての要求事項は, 文部科学省の感触を見ながら決定したい旨, また, 6月23日が締め切りとなっているので, 最終的な要求事項, 要求順位については学長に一任願いたい旨の発言があり, 了承された。

3. 平成16年度実績報告書について

学長から、平成16年度実績報告書について、審議願いたい旨の提案があり、中村副学長から、資料3に基づき、全体の概要、大学の教育研究に係る計画の進捗状況、業務運営の改善及び効率化に関する実施状況及び進行状況（大学としての評価）並びに今後のスケジュールについて概要説明があり、審議の結果、承認した。

なお、現在調整中の事項もあることから、それらをまとめた上で6月末までに文部科学省へ提出する予定である旨併せて説明があった。

なお、委員から次のような意見があった。

- 評価は運営費交付金に反映されるのか。
- 医師不足になり困っているので、計画的な養成を行ってほしい。
- 大学の中期計画は6年間となっているが、民間は3年程度としている。また、その時の状況に応じて毎年見直しを行っており、大学においても6年間の計画を見直すことも必要ではないか。
- 大学の評価は、いかに優秀な卒業生を輩出できるかにかかっており、ある程度の社会的地位に就いてもらうことで20～30年後に正しい評価が出るのではないかと。日本国自体が、若者を育てる意味での体制になっていないのではないかと。

報 告

1. 平成17年度年度計画について

中村副学長から、資料4-1及び4-2に基づき、平成17年度年度計画について説明があった。

2. 平成17年度予算について

財務部長から、資料5に基づき、平成17年度予算が決定されたことに伴い、大学の財政状況について説明があった。

3. 医学部附属病院の経営改善について

石部理事から、資料6に基づき、平成17年度の医学部附属病院における増収策等について説明があった。

閉会 午後5時15分